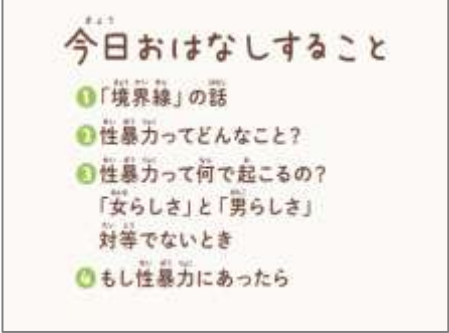
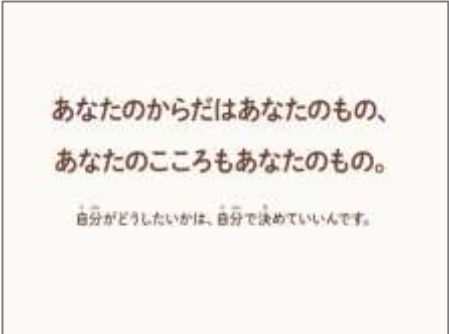
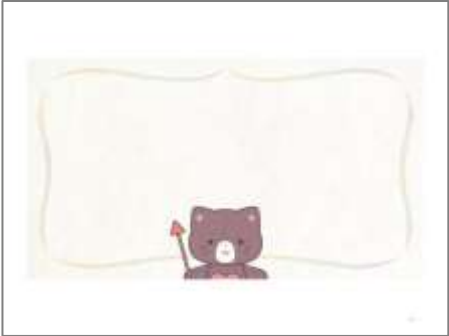


中学校向けテキスト

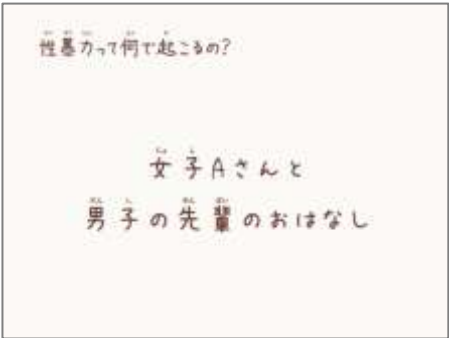
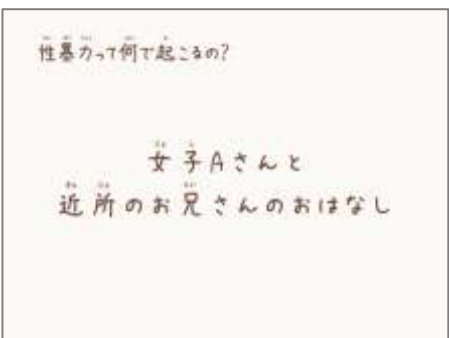
ページ	テキスト	留意点・ポイント
1		【ポイント】 到達目標 性暴力は権利の侵害であることを知る。 中学校での性暴力は、加害者に優位性がある状況での被害が多く、生徒間での性暴力も増加する。また、ネットアクセスが容易になり SNS 等を介した被害も発生する。被害が増える一方で、大人に相談するのが難しくなりやすく、一人で抱え込むことがある。ここでは性暴力や性的同意、性暴力が起こる背景についても学び、自分が被害にあった場合の対処の方法を考える。 ①何が性暴力かを知る 被害にあったときに「これは性暴力だ」と気付けるようになる。 ネットやアダルトサイト、マンガなどからの偏った情報でなく、正しい知識を得る。 性暴力の形は多岐にわたることを理解する。 ②性的同意について考える 性暴力の被害者にも加害者にもならないために、相手を支配するのではなく、互いを尊重し、違いを認め合うことが必要であることを学ぶ。 ジェンダーと性暴力の関係や、対等性などの性暴力の背景を知ったうえで、境界線と境界線をこえとぎの確認（同意）を考え、性暴力がなぜ暴力であり、人権侵害であるのか理解を促す。 加害者に優位性がある状況での被害だけでなく、生徒間での被害も増えてくる。 刑法上の性交同意年齢である 13 歳に達する。（※本授業で示す「同意」とは定義が異なる） ③信頼できる大人に話すことができること（権利）を知る 自分から大人に相談することは難しい。被害の影響や、被害以前からの経験により、子ども自身「相談してはいけない、自分に守られる価値がない」と思っていることがある。 被害時に相談してほしいという大人側の思いについては、それを強要・指示するようなニュアンスでは逆効果になる。また、子どもが相談できないとき、周囲の大人の側に原因があること

		が多い。これらの理由から、大人への相談（被害経験の開示）を、子どもたちがするもしないも選ぶことのできる「権利」として伝えていく。子どもの権利条約に基づき子どもは皆、大人から守られる権利を持つ。このパートは、上記内容について、間接的に授業実施校の職員への示唆も意図している。
2		【ポイント】 あらかじめ授業の全体の流れを示しておくことで、流れの意図が伝わりやすいように。
3		【ポイント】 本授業の基本となる考え方を伝える。 なぜ境界線の概念が役に立つのか、の導入となる。 中学生も当事者（被害者、加害者、その関係者になりうる）であることから、伝えたい。 【留意点】 このスライドのフレーズは、大事なことなので、授業の中で繰り返し伝える。
4		【ポイント】 動画「境界線ってなに？」を視聴することで、境界線の考え方を、直観的かつ具体的にイメージできるようにする。
5		【ポイント】 「境界線」の種類を例示することで、目に見えない境界線の概念についてイメージを固めていく。 個人にまつわるいろんなものが大切に扱われるべきものであることを共有する。 【留意点】 それぞれの境界線の侵害例については動画でふれているので、ここであえて例示しないが、子どもたちの反応を見て理解が追いついていないようであれば動画で取り上げた侵害例に立ち

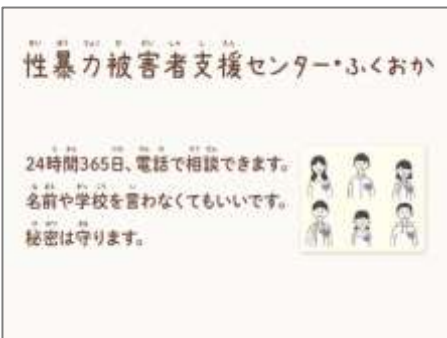
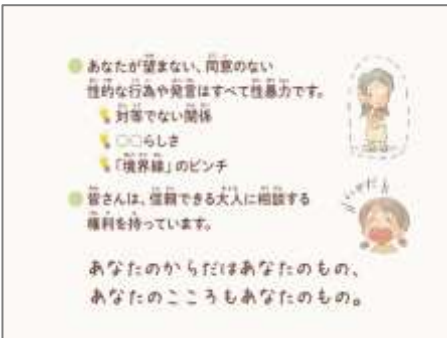
		戻って言及しても良い。
6		【ポイント】 「境界線」の学習は小学校高学年で取り扱うが、本制度の試行期間中は知識が習得できていない生徒がいる。 安心や安全を考えるとときに共有したいイメージで、性暴力の授業では欠かせない視点であるため復習として再度取り上げる。境界線概念を理解することは、自分自身を理解するための手助けになり、性被害・性加害を生まない文化の第一歩となる。 【留意点】 「境界線」という感覚や考え方をベースに、以降、性暴力や性的同意の説明を展開していく。
7		【ポイント】 ワークを通して自分の境界線を知り、その危機（ピンチ）についてアンテナを張るきっかけとする。 【留意点】 発表の際は、まず先生に発表してもらい安全な枠を感じてもらう。 先生には打ち合わせなどの段階でワークの意図を伝え、事前に内容を共有しておく。 生徒が考えてくれたことに対して受容、フィードバックを行っていく。その際、子どもたちの力を信じ、エンパワメントしていくことを忘れない。
8		【ポイント】 次スライドから性暴力を例示するにあたって必要な概念。
9		【ポイント】 性的同意について学ぶことは、性暴力の被害者にも加害者にもならないために必要な学びである。境界線を張ることだけではなく、相手の境界線を大事にすること、境界線をこえることができるルールを理解してこそ、性暴力が何かが理解できる。「性の境界線」をこえるときの確認として「性的同意」を説明することで、生徒のイメージのしやすさを狙っている。

14		【ポイント】 被害後の反応が正常なものであることを知ることで、被害を受けた場合に自らのコントロール感を取り戻す助けになることが期待できる。 また、ひとつの被害がその後に与える影響を知ることで、性暴力を生まない土壌を培っていくことを期待したい。
15		【ポイント】 架空事例 ネットと性暴力 ネットアクセスが容易になり、SNS を介した被害が発生している。 性暴力の実態を知るには欠かせない内容である。 【留意点】 次のスライドから、インターネットにまつわる性暴力の事例を3つ用意している。 ・自撮り（同級生同士） ・趣味友（SNS で知り合った大人からの被害） ・家出（SNS で知り合った大人からの被害） 各学校のニーズにあわせて、いずれか1例を選んで使用する。 自撮り＞趣味友＞家出、の優先順位で選ぶことを推奨する。 （例えば、自撮りのエピソードと似た事案が発生したことを学校が把握していた場合は、趣味友を選ぶ。趣味友に似た事案があれば、同様に、家出のエピソードを選ぶ。） 各事例の後に、「被害にあった人が悪いんじゃない」という視点を伝える。 ネットの出会い自体を否定しない。（すでにネット上の出会いは子どもにとって一般的になっているため、否定するニュアンスの話者に対して拒否感が生まれる。また、ネット上での出会いによって抛りどころを得ている子どもも多い。） 侵襲が多いパートに入るので、タイトルスライドでワンクッション置くことで、心の準備をしてもらう。聞けない子どもは教室を出る時間の余地を与える。

16	「性暴力」ってどんなこと？ 同級生のふたりは、 普段から自撮りを送りあっていた。 性的な自撮りを送るように言われて、 「見るのはこの子だけだし、 まあいいが……」と思って送りました。 	【ポイント】 閉じられた関係性の中での行為はエスカレートしていきやすい。 ※他、SNS やインターネットのリスク 【留意点】 手口の紹介になるが、防犯教育の形にはしない。(脅すことが目的ではない) 「自撮りを送った人が悪い」というニュアンスにならないように留意する。あくまで被害者は悪くない。 男子にも起こりがちな被害内容であるため「被害者＝女性」と植えつけないよう、性差ない形で伝える。 文字にしてしまうと侵襲的なので、結末は口頭でのみ伝える。
17	「性暴力」ってどんなこと？ SNSで知り合った同じ趣味を持つ友達。 「カラオケ行こう」と誘われ、 「ネットの人だけど、同性で同じ年だからいいかな」 と思って実際に会うと、 異性でかなり年上の人でした。 	【ポイント】 ※他、SNS やインターネットのリスク 【留意点】 手口の紹介になるが、「気をつけろ」的な、脅す形にならないように。 「会いに行った人が悪い」というニュアンスにならないように。 「被害者＝女性」と植えつけないよう、性差ない形で。 文字にしてしまうと侵襲的なので、結末は口頭でのみ。
18	「性暴力」ってどんなこと？ SNS上で「家出しようかな」とつぶやいたところ、 知らない人から優しいコメントがきました。 「話聞くんよ」と言われ、会いに行きました。 実際に優しい人で「うちに泊めるよ」と 言ってくれました。 	【ポイント】 ※他、SNS やインターネットのリスク 【留意点】 手口の紹介になるが、「気をつけろ」的な、脅す形にならないように。 「会いに行った人が悪い」というニュアンスにならないように。 「被害者＝女性」と植えつけないよう、性差ない形で。 文字にしてしまうと侵襲的なので、結末は口頭でのみ。

19	 ※スライド20～29は割愛	【ポイント】架空事例 対等でない関係性 性暴力が起きる背景の一つとして、次スライドで示す、非対等性とジェンダーバイアスにつなげるための事例。 【留意点】 次のスライドから、中学生にとって身近な上下関係と関わる性暴力の事例を2つ用意している。 ・部活の先輩からの被害 ・近所のお兄さんからの被害 各学校のニーズにあわせて、いずれか1例をチョイスする。(実施校で実際に起こったケースに似たものは避ける) 侵襲が多いパートに入るので、タイトルスライドでワンクッション置くことで、心の準備をしてもらう。聞けない子どもは教室を出る時間の余地を与える。
30	 ※スライド31～40は割愛	【ポイント】架空事例 対等でない関係性 性暴力が起きる背景の一つとして、次スライドで示す、非対等性とジェンダーバイアスにつなげるための事例。 【留意点】 前の事例のスライドから、中学生にとって身近な上下関係と関わる性暴力の事例を2つ用意している。 各学校のニーズにあわせて、いずれか1例をチョイスする。(実施校で実際に起こったケースに似たものは避ける) 侵襲が多いパートに入るので、タイトルスライドでワンクッション置くことで、心の準備をしてもらう。聞けない子どもは教室を出る時間の余地を与える。
41		【ポイント】 性暴力が起きる背景の一つとして、非対等性、権力関係がある。加害者は、力関係（立場、体力、経済力）が上であること（優位性）を利用して、被害者を信用させたり、あるいは脅したりだましたりすることも多い。 この力関係は、被害者の開示を妨げる要因でもある。 【留意点】 概念的な話に聞こえると理解が難しくなるので、前スライドの事例に立ち戻りながら伝えていく。

42	性暴力って何で起こるの？ 「女らしさ」と「男らしさ」 ●女の子は大人しい方がいい。 自己主張しなきゃいけない。 ●女の子のイチャイチャじゃない。 男の子はちょっと強引なくらいがいい。 ●男の子は、弱音をはいちやいけな。 →「らしさ」にとらわれない 「自分のきもち」を見つけよう。 	【ポイント】 ジェンダーバイアスが加害、被害につながる。 特に男性ジェンダーについて、被害の開示を妨げる。 【留意点】 被害にあうのは女性に限らない。
43	もし「性暴力」にあったら あなたができること ●逃げる・距離をとる ●信頼できる大人に相談する ●病院などで適切なケアを受ける 	【ポイント】 性暴力を受けたことを認めたくない気持ちや自責感、恥の感覚によって、相談するハードルは高くなる。具体的な対応、相談先、相談したらどうなるか、対処法を考えることで、実際に被害を受けた際に相談しやすくする。同時に被害にあったときの混乱や傷付きを少しでも軽減させる。 【留意点】 被害者は、これらが選べないこともある。できないことを責めないように。 選択肢として示すこと。
44	もし「性暴力」にあったら あなたができること ✓ 相手からの連絡には返信しない 逃げる 距離をとる 	【ポイント】 身を守ることが最優先。再被害を防ぐ。 同じ加害者からの繰り返しの被害もあるため、連絡に返信しないことが大事になる。 【留意点】 逃げられない状況もあるため、そのフォローもナレ案に含めている。
45	もし「性暴力」にあったら あなたができること ひとりで抱え込まず、助けを求めよう ●担任の先生、養護の先生、スクールカウンセラーなど 自分が話せると感じる学校の先生 ●保護者、いつも身近にいる人たちなど 信頼できる大人に、 相談する権利を みんな持っています。 	【ポイント】 ◆キースライド（全てのスライドを示す時間がない場合、このスライドを優先的に示す。） ここで例示している大人らは、子どもと近い関係の中で支援が可能な立場であると同時に、境界線（権利）を侵しやすい関係性である。その点を留意すると、学校外の立場であるアドバイザーが「相談する権利」を授業で伝える意義は大きい。 相談や報告を強制・指示するようなニュアンスとならないように。あくまで相談するかしないか、誰に相談するかは子ども自身が選んでよい。 【留意点】

		学校関係者が子どもから相談を受けたときの対応について、アドバイザーからの助言・サポートが必要となる可能性あり。
46		【ポイント】 性被害にあった際の、妊娠の予防も含めた心身を安全に保つための方法を伝えていく。 ケアの方法については、自ら選択していける機会とする。 【留意点】 指示的になったり、脅したり、過度な期待を持たせるような説明は控えること。 例：病院に「行かないといけない」など。 また、妊娠について、「望まない妊娠」という表現は、生まれてくる子どもに対して「望まれなかった子ども」と命を軽くとらえる危惧があるため、より中立的・客観的に状況を表す「予期しない妊娠/計画していない妊娠」などの言葉を使う。
47		【ポイント】 相談先として性暴力被害者支援センター・ふくおかを紹介する。 センターを相談先として選ぶ際のポイントは、以下の通り。 ・どうしたらいいかわからない、どうしたいかわからないときに、とりあえず相談できる。 ・身近な大人に話しづらいとき（しがらみのない知らない人のほうが話しやすいことがある）。 ・匿名で相談したいとき ・電話で相談したいとき（対面相談よりも顔の見えない電話のほうが話しやすいことがある）。 ・24時間365日利用できる。 ・被害者本人だけでなく、関係者（被害者の友人や家族、支援者等）も利用できる。 【留意点】 配布しているカードを示す。
48		【ポイント】 まとめとクロージング。